

## (2) 環境に有益な事業

「環境に有益な影響を与える事業」として、目標に設定した115事業のうち99事業について目標達成し、達成率は約86.1%となりました。

各部署において部署自身が自ら業務の独自性や地域性を活かした環境目標を必ず1つ以上設定し、部署内でPDCAサイクルを回し、継続的改善を図っています。目標を達成できなかった16事業については、目標設定が適切でなかったこと

が要因と考えられます。今後は、これらを改善することにより、達成率の向上を図るとともに、環境に有益な事業を推進していきます。ここでは、実施した115事業の中から11事業について紹介します。

### ① 太陽光発電の導入

水道事業において、河川から取水した水の浮遊物を取り除く沈殿地では、日光による藻類等の発生や、水温上昇によるトリハロメタンという有害物質の発生による水質の悪化が懸念されます。その対策として設置した遮光設備の上に太陽電池パネルを取付け、場内使用電力の一部をまかっています。(企業庁水道事業室)



播磨浄水場太陽光発電設備(桑名市)



グラウンド改良材の製造(高野浄水場・津市)

### ② 汚泥の活用

水道水に浄化する過程で発生する汚泥を、学校やスポーツ公園のグラウンド改良材や花き園芸用土に加工して、できる限り有効利用しています。

また、最近では、セメント原料や改良土の原料としても使っています。(企業庁水道事業室、工業用水道事業室)

### ③ 自然エネルギーの有効利用

水力発電は、自然エネルギーを利用した二酸化炭素を排出しないクリーンな発電方式です。

三瀬谷発電所では電気事業保安規定に基づく電気工作物の巡視・点検を行い、日々の運転監視や設備の維持管理に努めながら、電気を安定して供給しています。(企業庁電気事業室)



変電設備の点検  
(三瀬谷ダム・大台町)



運転監視  
(三瀬谷ダム・大台町)

### ④ 生物多様性の保全

水質浄化機能を有し、魚介類の産卵場や生育場として重要な役割を果たすアマモ場を再生する技術開発を目指し、海域の環境悪化を防止・改善します。平成19年度は、細胞培養により中間育成したアマモ苗を、ヤシマットを用いた移植用具(マリンバスケット)を使用して海域への移植を行いました。マリンバスケットを使用すると海域移植後の生存率が高く生育も順調で、海域移植用具として有用であることが実証されました。(科学技術振興センター水産研究部)



マリンバスケット  
による移植アマモ苗

## INTERVIEW 1

企業庁 水道事業室 ●主査 中北賢司

企業庁では、三重県庁地球温暖化対策率先実行計画を受けて、独自の地球温暖化対策率先実行計画を策定し、温室効果ガス削減目標達成のための取組を行っています。エレベーターの利用削減や昼休みの消灯を実施し、浄水場に太陽光発電設備、小水力発電<sup>\*</sup>(現在、施工に向けて動き出している)を設置することにより使用電力の削減を図っています。太陽光発電設備は、沈でん池に直射日光が当たるのを遮り、藻の繁殖を抑えることができるので水質改善や維持管理コストの削減にも役立っています。また、ポンプの運転には多くのエネルギーを必要としますが、運転方法の見直しにより効率的な運転を行い、設備の改良時には変圧器等に高効率のものを採用するようにしています。夏の高温時には、機器の故障に影響することから温度には気を使いますが、すだれを利用することにより室内温度が低下し、機器の故障率の低減にもつながりました。



中北賢司

機器の故障に影響すること  
機器の故障率の低減にもつ

<sup>\*</sup>小水力発電:明確な定義はなく、一般的に新エネルギーの適用を受ける出力1000kW以下の小規模水力発電のことをいいます。水道施設では、導・送水管中の残水圧を利用して発電することが多いです。

注:上記の組織名称は平成19年度のもので、平成20年度は、組織機構改革に伴い組織及び名称を変更しています。ただし、インタビュー記事は平成20年度現在です。

## 6 多様な主体による環境保全活動～農地・水・環境保全向上対策～

農業者や地域住民など多様な主体により、農地・農業用水などの資源を守る共同活動や生き物調査、水路沿いへの花の植栽など地域の環境向上活動を実施しました。

平成19年度は、桑名市嘉例川地区において土地改良区や地元自治会で構成する「かれがわふる里活動隊」により、地域に生息している希少生物の保護を目的とした保全活動をはじめ、県内234の活動組織において、実施しました。（農水商工部農業基盤室）



多様な主体による生き物調査  
(桑名市)



里づくり・ピオトープづくり  
(多気町)

## 6 里づくり・ピオトープづくり

多気町において、平成19年5月にふるさと水と土農村環境創造事業を実施しました。地域資源として津田用水を活用しながら、地元の児童と一緒に遊休農地へのひまわりの植栽やピオトープへのメダカの放流を行うなど、農村景観の保全、創造活動をしました。（農水商工部農山漁村室）

## 7 ごみ固形燃料(RDF) 燃焼灰の再資源化

ごみ固形燃料(RDF)\*を燃焼させて発電している三重ごみ固形燃料発電所では、発電時に生じる焼却灰もセメント材料や骨材等として100%再資源化し、廃棄物発生抑制に努めています。（企業庁電気事業室）



RDF(ごみ固形燃料)

焼却  
発電



焼却灰をタンクに搬入

運搬



セメント資源化施設

セメント資源化施設に搬送された焼却灰は、塩素分を水洗いして除去したあと、セメント原料としてリサイクルしています。

## 8 三重県版小規模事業者向け環境マネジメントシステム(M-EMS:ミームス)の普及



M-EMS登録証交付式

事業者の自主的な環境活動を促進するため「経費や労力の面で負担が少なく、取り組みやすい」環境マネジメントシステム「M-EMS」を平成16年9月にスタートしました。M-EMSでは構築講座や個別コンサルティングを受けていただくことにより、事業者が「できることから」環境保全活動に取り組んでいただける仕組みになっています。平成19年度末までにおいて157事業者がM-EMS に取り組み、78事業者が認証を取得しています。（環境森林部環境活動室）

## TOPICS 2

### 日本の棚田百選

棚田は、その地形を活かした特色のあるコメづくりの場としてだけでなく、急峻な地形を巧みに利用した稲作を通じて、国土・環境の保全、農村の美しい原風景の形成、伝統・文化の継承等多面的な機能を発揮しています。このように棚田は国民の健康的でゆとりある生活を確保する上からも大きな役割を果たしていることから、農林水産省は、多面的機能を有している優れた棚田を認定しています。

三重県では、丸山千枚田（熊野市紀和町）、深野のだんだん田（松阪市飯南町）、坂本（亀山市）が日本の棚田百選に選定されています。



丸山千枚田

\*RDF:可燃ごみ(生ごみ、紙ごみ、廃プラスチック等)を粉碎、選別、乾燥、固形化し、利用しやすい形状の固形燃料にしたものです。  
注:上記の組織名称は平成19年度のもので、平成20年度は、組織機構改革に伴い組織及び名称を変更しています。



## ⑨「みえのうみ」環境保全活動促進事業

豊かな海の恵みをもたらす「里海」伊勢湾を再生するため、県民が主体となった海の環境保全に向けた取組を促進しました。

具体的には、「みえのうみ」ホームページにおいて県内各地の環境活動に関する情報を提供したり、環境啓発イベントや講演の開催、小中学校の総合学習への支援を通じて、三重県を取り巻く海洋・河川環境に関する諸問題を理解していただきました。(農水商工部水産資源室)



環境啓発イベント(鈴鹿市)

## ⑩ 産業廃棄物の自主情報公開制度

産業廃棄物多量排出事業者が、廃棄物の排出抑制等を目的とした計画を策定し、地域住民の方に自主的に情報公開する制度を設けています。

この制度の普及に当たり、環境技術指導員は、企業を訪問して廃棄物の発生抑制やリサイクルなどの技術相談に応じたり、先進的な取組が行われている企業を調査し、参考となる情報を発信しています。

平成20年3月末現在で自主情報公開を実施している事業者は、526社となっています。

また、県内の産業廃棄物発生抑制やリサイクル促進のため、県内企業のみなさんを対象に、自主情報公開制度の説明会や、有識者による講演、先進事例の紹介などを県内で開催しました。(環境森林部廃棄物対策室)



自主情報公開制度説明会、セミナー

### ● 自主情報公開制度説明会、セミナーの開催状況

説明会	津 庁舎 (19年 5月 7日) 四日市庁舎 (19年 5月 8日) 松 阪庁舎 (19年 5月 9日) 伊 賀庁舎 (19年 5月 22日)	産業廃棄物適正管理推進マニュアル、自主情報公開ガイドラインの説明
セミナー	伊 勢庁舎 (19年 10月 31日)	○事例紹介「皆様に愛されて21年！環境配慮製品レンズ付きフィルム『写ルンです』の循環生産システム」 富士フィルム(株) 神奈川工場事業部 ○廃棄物処理法の概要と改正の経緯 ○電子マニフェスト制度と産業廃棄物管理票状況報告
	総合文化センター (津市) (19年 11月 20日)	○電子マニフェスト制度と産業廃棄物管理票状況報告 (解説：(財)日本産業廃棄物処理振興センター) ○産業廃棄物管理票状況報告書 ○廃棄物処理法の概要と改正の経緯
	四日市シティホテル (四日市市) (20年 2月 15日)	○廃棄物処理法の概要と改正の経緯 ○PCB廃棄物の処理の推進について ○電子マニフェスト制度と産業廃棄物管理票交付状況報告

## ⑪ 新エネルギーで学んで遊ぼう

平成19年7月28日、29日に開催された「Mie こどもエコ王国大会」で新エネルギーのコーナーを出展し、燃料電池自動車の模型による実演や展示パネル、新エネルギークイズなどをおとして、次世代を担う子供たちに、環境問題やエネルギー問題について考える機会を提供しました。(政策部土地・資源室)



新エネルギー体験コーナー  
(四日市市)